

わがまちみらいマネジメント講座「会議の見える化講座」 実施報告書

- 1 日 時 令和元年 11 月 30 日（土）10 時～16 時
- 2 会 場 長崎市消防局 5 階講堂（長崎市興善町 3-1）
- 3 開催目的 地域活動のリーダー等を対象として、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の習得を目指す
- 4 テー マ 「ファシリテーション・グラフィック」など、会議の見える化に効果的な手法を学ぶ
- 5 参加者 31 名
- 6 講 師 畠中 智子氏（株式会社わらびの 代表取締役）

高知県生まれ、高知県在住。1992 年に「高知のまちづくりを考える会」を発足後、市民誰もが参加できるスタイルとしてワークショップ手法に着目。「自由で気楽で形式張らない」を合言葉に、様々なジャンルで参加型での話し合いの場を企画しファシリテーターとしてサポート。各地で研修や講演も実施している。



7 実施内容

○事例紹介

畠中さんが関わった話し合いや地域活動の事例とファシリテーション・グラフィックの事例から、「見える化」による利点やファシリテーションをするうえで畠中さんが心掛けていることなどを学びました。

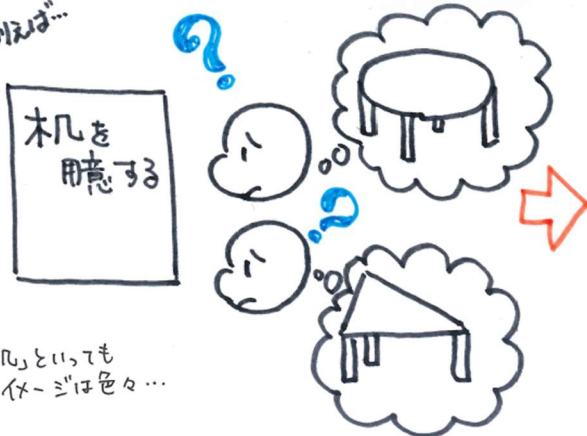
・「自由に気楽に形式張らない」会議にするためのポイント



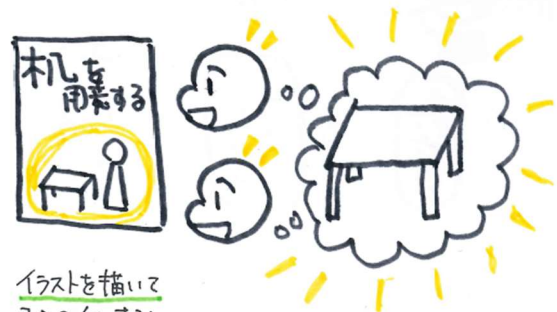
・「見える＝分かりやすい会議」

見える化することで参加者の共通理解を深めながら、話し合いを進めることができます。

例えば...



「机」としても
イメージは色々...



イラストを描いて
見える化すると、
イメージのズレがなくなる。

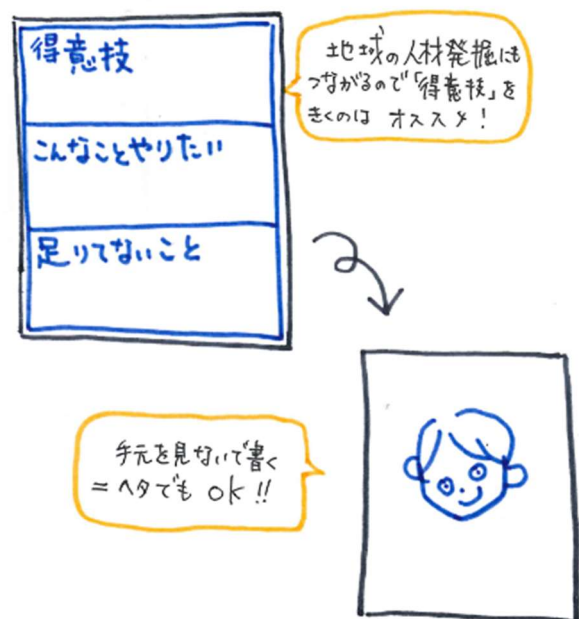


○似顔絵他己紹介

事例紹介の後は、グループに分かれ似顔絵他己紹介をしました。

【似顔絵他己紹介】

- ①参加者を6人か8人ずつのグループに分けます。
- ②手づくりのインタビューシートを作成します。(3つの質問項目を書き入れる)
- ③向かい合わせの人とペアになります。
- ④シートの裏面にお互いの似顔絵を描きます。(手元を見ずに30秒で)
- ⑤3分ずつでインタビューし、相手が話したことを記録します。
- ⑥インタビューシートをもとに、グループ内で1分ずつ他己紹介します。



【ねらい】

① 自由で気楽で形式張らない雰囲気づくり

お互いに手元を見ずに似顔絵を描くという笑顔になれる仕掛けで、緊張した空気を解きほぐし、気楽に参加できる雰囲気をつくります。

② 1対1のコミュニケーションから始まる

話すのが苦手な人でも、最初は相手が1人なので抵抗なく自分の思いを喋れます。また、インタビューシートで話すことが決まっていることでさらに話し易くなります。その後も、自己紹介ではなく相手を紹介する形なので、話すハードルが低くなります。

③ 水平な関係づくり

誰かが延々としゃべり続ける一方、少ししかしゃべれない人がいると否応なしに上下関係が生まれてしまいます。遊び心のあるルールの中で、インタビューは3分、紹介は1分と、全員が同じ時間を共有することで、肩書や年齢に関係なく、水平な関係を感じてもらうことが大切です。



○「見える化」をやってみる① 模造紙と付箋紙を使ってみる

似顔絵他已紹介で話した「地域でやりたいこと」をそれぞれ付箋に書き出し、模造紙に貼って「見える化」しながら話し合いました。

【「見える化」するためがあると便利なもの】

① 模造紙

みんなで見て確認できるよう、意見を書いたり付箋紙を貼ったりします。

② 付箋紙

付箋に意見を書くことで、手を挙げて発言するよりも全員からもれなく意見を集めることができます。また、並び替えて分類するなど、整理がしやすくなります。

③ 水性マーカー

模造紙や付箋紙に書くときは、ボールペンやサインペンでは線が細く、読みづらくなります。また、水性マーカーを使うと必然的に文字が大きくなり字数が制限されます。

【付箋の使い方】

- 単語だけ書くのではなく、短くても伝わりやすいように少し具体的に書きましょう。
(名詞+動詞、名詞+形容詞など)
- 書いているときは無言になるので、話し合いをしているときは全員で書くのではなく、書記係を決めると良いです。
(今回は、1人1枚ずつ付箋をだし、指さし投票で一番「見やすい」の票をあつめた人に書記をしてもらいました。)



○ファシリテーション・グラフィックのテクニック

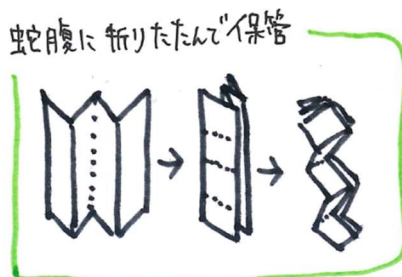
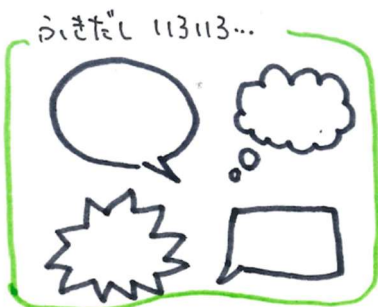
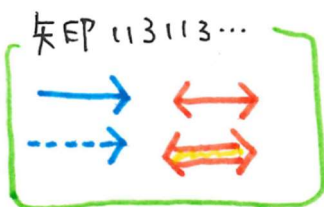
ファシリテーション・グラフィックとは、意見のありようを視覚的に確認するための手法で、話し合いの現在地と行き先がひと目で確認でき、参加者の共通理解が進みます。

午後からは、模造紙を壁に貼って、それぞれマーカーで実際に書いてみながら、いろいろなテクニックを教わりました。

- ・ マーカーの持ち方
- ・ 色づかいによる意味付け
- ・ 文字の大きさの工夫
- ・ 矢印の種類
- ・ 文字、図形、アイコンの使い方
- ・ 書き終わった模造紙の保管方法 など

色の使い分け

- 黒 ... 文字を書く
- 赤 ... 反対意見や問題点を指摘する意見
- 青 ... 賛同意見や前向きな意見
など"など"



○「見える化」をやってみる② テクニックを使ってみる+旗揚げアンケート

習ったファシリテーション・グラフィックのテクニックを使って、午前中に話した「地域でやりたいこと」をより分かりやすくまとめてみました。その後、各班1つずつ「これを実行したい!」という提案をし、旗揚げアンケートを行いました。

【旗揚げアンケート】

- ① 設問を提示します（今回は、各班が発表した「やりたいこと」）
 - ② 選択肢を読み上げます
今回は、提案に対し「私がリーダーになる!」という人は赤、
「一緒にやりたい!」という人は青、
「できる範囲で応援します」という人は緑、「ごめんなさい」という人は黄、その他は白を選びます。
 - ③ 一斉に旗(カラーカード)を掲げてもらいます。
 - ④ 選択肢ごとの人数を数え、全体に報告します。(人数が多いときは割合でも可)
 - ⑤ 選んだ理由を尋ねるなど、何人かとやり取りをします。
- 「私がリーダーになる!」という人がいるかいないか見える化することで、声の大きい人に引っ張られずに、実行できるものかどうか分かります。
 - それぞれ「なぜその色を挙げたのか?」と理由を聞いていくことで、話し合いを深めていくことができます。
 - カラーカードはわざわざ作らなくても代用可能です。(カードじゃなくて物でも OK)



○質問シートを作ってみよう!

「畠中さんに聞いてみたいこと」というテーマでグループごとに話し合い、各グループ2つの質問を考えました。

その質問を模造紙に書き質問シートを作成した後、畠中さんの答えをその場で模造紙に書きこんでいくレコーディングに挑戦してみました。

【出た質問と畠中さんの答えの一部をご紹介します！】

- ワークショップは意思決定の手法になるの？
⇒ 意思決定というよりも、「合意形成」の手法。プロセスの中の多様な意見を取り込みやすくなる。
- 模造紙で「見える化」をしておけば、わざわざ議事録は作らなくても良い？
⇒ 会議の内容にもよるが、情報共有をするためには議事録があると良い。
例えば、ワークショップの結果を住民に共有するために、わかりやすい議事録を作る等。
- ファシリテーションをする中で絶対にやってはいけないことは？
⇒ 特定の人の意見に肩入れする「この方ヨイショ」。
時間延長。(忙しい中都合をつけてくれている人もいるので、時間厳守で！)

…などなど



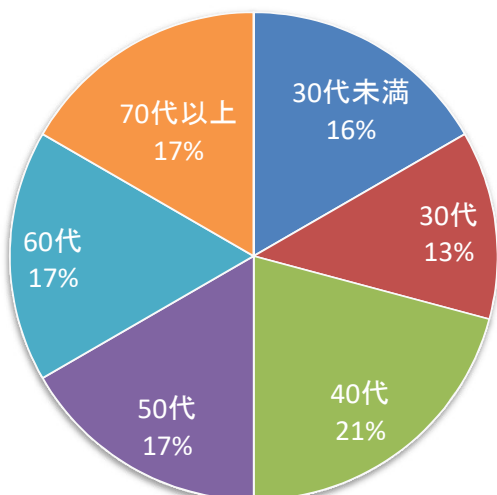
8 アンケート結果

別紙「アンケート結果」参照

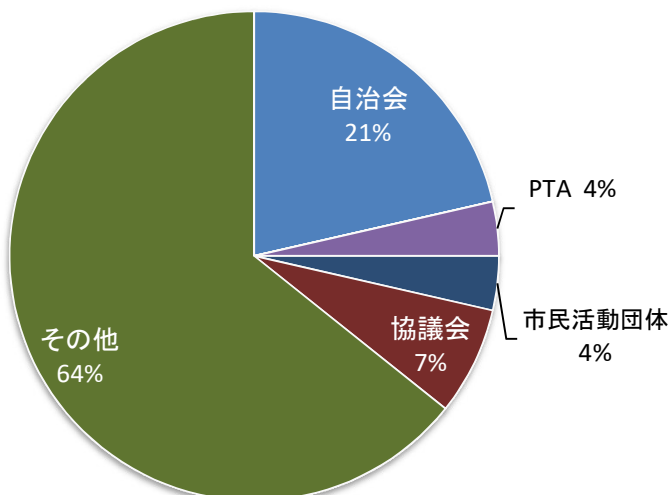
わがまちみらいマネジメント講座 令和元年11月30日開催「会議の見える化講座」アンケート結果

回答者24人（参加者31人）

参加者 年代比率

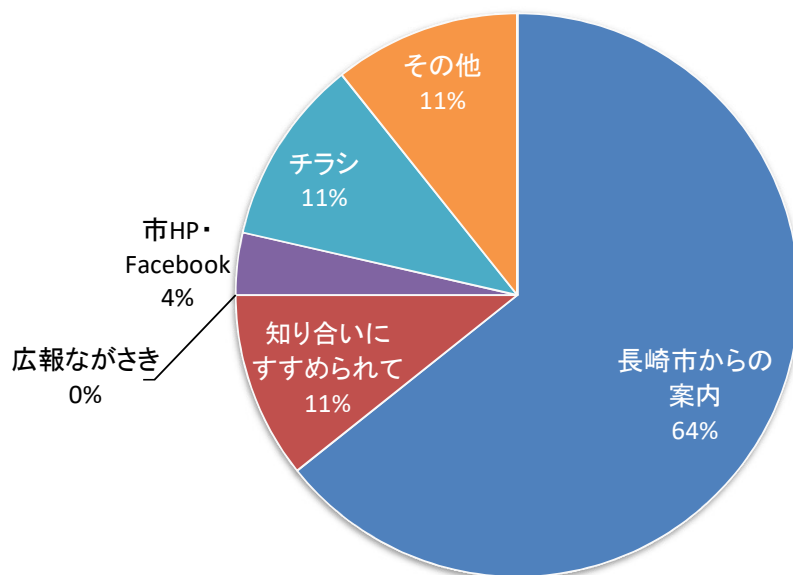


参加者 団体比率



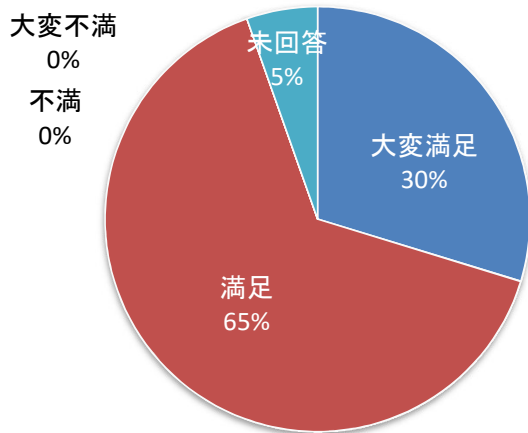
育成協・子どもを守るNW、社協支部、子ども会、老人クラ

1 本日はどのようなきっかけでご来場されましたか？（複数可）

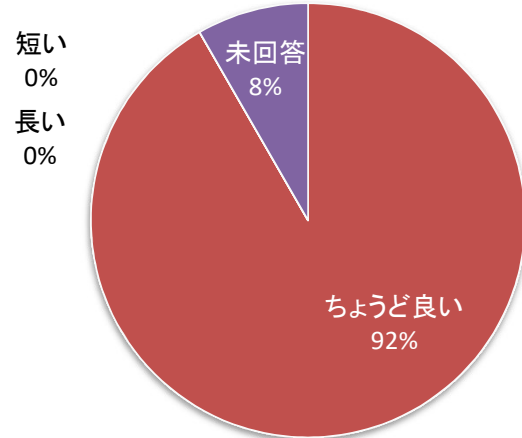


2 本日の講座の評価について、当てはまるものを選んでください。

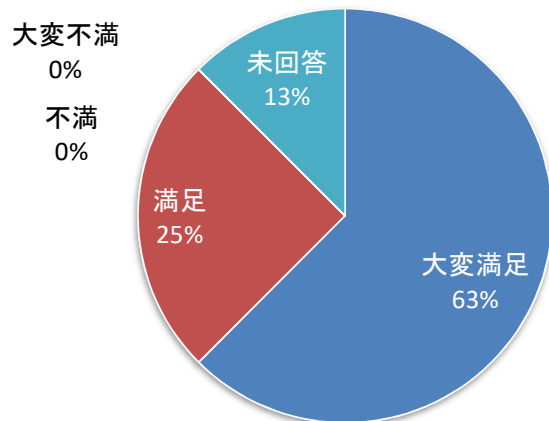
(1) 講座内容について



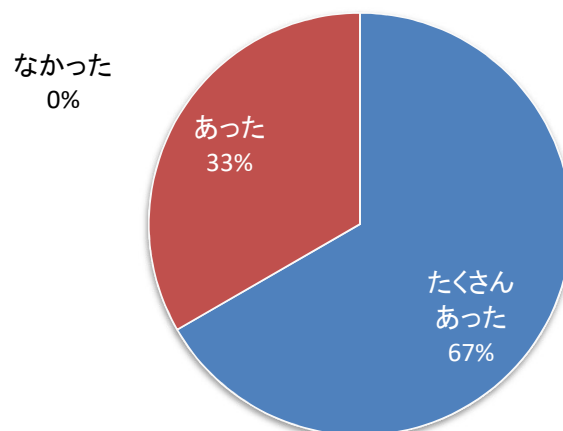
(2) 時間配分について



(3) 全体的に



3 新たな発見や活動の参考になることはありましたか？



3 新たな発見や活動の参考になったこと（自由記述）

内容
絵の有効性が、具体的なイメージの共有という面もあることを知った。また、色カードを使った「旗揚げアンケート」は実践(提案)してみたい。
旗揚げアンケートでリーダーを発掘すること。
旗揚げ式アンケート
ファシリテーションの基礎がよくわかった。
会議の進め方
ファシリテーションの3つの極意を職場の会議で活かしていきたいと思います。
それぞれの意見を一つの表にまとめる手法を学べたのは良かったです。
口の字型の会議だと、しゃべりづらいと感じてましたが、「つぶやきがやりとりできない」ということを知りました。
ホワイトボード記入は耳から手に伝達する。 模造紙の折りたたみ方。
やっぱり見える化⇒ファシリテーショングラフィック 他己紹介
模造紙の記入方法や文字の記入方法など視覚に訴える手法を学びました。
模造紙のたたみ方。 色づかいの方法。
WSのグラフィック
ファシリテーショングラフィックにおけるバランスの極意。
ファシリテーショングラフィックで色づかいやアイコンで分かりやすくなることがわかりました。なかなか定義できるかは不安ですが、やって行きたいと思います。
模造紙の使い方 ウォームアップの事例 など
見える化の実践ができてよかった。
具体的に事例をあげられ分かりやすかった。
グラフィックの仕方など、今まで我流でなんとなくしていたことも、小さなことから1つずつ丁寧に教えていただき、美しく見えるコツも学ぶことができました。
2時間の話し合いの中でも10～15分でテーマを分けること。
ばっかりよりバラバラ・6人程度のグループ・つぶやきは漏らさず書く・アイコンでイメージを共有
色々な事をする上で順番のしかたがよく見えた。
何故そこへ来たのか？ 反対をしているのか？の対応例が良かった。 話を聞くという体制。 さわれない空家などの使いかた⇒身の丈⇒小さい活動でも良い

4 今後学んでみたいこと（自由記述）

内容
人が元気になる講座。
地域の方へのサポートの極意。
参加者を増やす方法 参加をし続けてもらう方法
広報力(イベントの周知、コミュニティ協議会などへの理解)
ネットワーク作り。みんながワクワクするような企画を学んでみたい。
会議の進め方をさらに学んでいきたい。
小さなつぶやきからでも、取りこぼさないで、問題やアイデア提案につなげていけるように学んでいきたい。
意見が対立した時の合意形成。
会議の進め方
空家対策
地域コミュニティの推進について。

5 その他、ご意見・ご要望、感想など（自由記述）

内容
本日の研修は自分が苦手だった分野であったので、今後の仕事に役に立てそうです。
ありがとうございました。
また、別の自治会員も参加させるようにしたい。
勉強になりました。
楽しく学ぶことができました。
アイスブレイクの方法で、1対1の方が人は話しやすいなど興味深かった。 今後、地域の会議などで意識的に行っていきたい。
非常にゲー
時間があっという間に感じたくらい楽しかったです！
小さいことでも協力者があればやがて大きくなる。無理はしない。 見える化講座をなぜするのか？を他の人にわかるように伝えたい。 失敗とは思わないこと⇐感動する～・ポジティブ・最高！！